

「新学科、軌道乗せる」

公立大再任の辻学長抱負

宮崎市の宮崎公立大学長に再任され、来年4月から2期目をスタートさせる辻利則氏(62)は18日、同大学で会見を開いた。来年度の国際情報学科の新設を見据え「国際文化学科との2学科体制を軌道に乗せ、将来にわたって宮崎で必要とされる大学であり続ける土台を築きたい」と抱負を語った。2期目の任期は来年4月から2年間。

辻学長は「少子化とデジタル技術が急速に進み、大

学を取り巻く状況は大きな転換期を迎えている」と指摘。社会の変化を見据えた教育や研究、地域貢献が求められているとし「2学科の専門性を生かしながら互

いに高め合う教育環境を構築していく」とした。

来年度スタートする国際情報学科については「自由に発想する力、物事を多面的・批判的に考える力を身につけてもらいベラルアーツを教育の土台にする」と述べた。小中高校で教員が不足している問題に対応するため、学生が教員免許

を取得しやすい環境を充実させる方針も示した。

近年、国際交流の推進や企業・団体との連携、防災教育などを進めてきたと説明。「多様な背景を持つ人が学び、働き、活躍できる環境をつくるため、教職員だけでなく学生も運営に携わる新しい体制を構築し

ていきたい」と力を込めた。

辻氏はえびの市出身。宮崎大学院工学研究科博士後期課程システム工学専攻修了。1993年に助手として着任し、教授、人文学部長などを経て2023年に学長に就任した。

(成田和美)



2期目に向けた意気込みなどを語る辻利則学長＝18日午後、宮崎市・宮崎公立大